



## 年惜しむ 心うれひに 変わりけり

たかはまきよし  
高浜 虚子

師走のあわただしさが増して参りました。

楽しかったこと、悔しかったこと、うれしかったこと、悲しかったこと等々、今年もいろいろありました。

この時期、文章を書いたりあいさつをしたりするときに便利な言葉が「いろいろありました」です。

世界一短い手紙は、文豪ビクトル・ユゴーが出版社に自分の書いた本の売れ行きが気になり出した「？」と書いただけの便りだったといわれます。出版社からの返信は「！」と知らせたものでした。「？」本の売れ行きはどうですか。「！」あなたの書いた本は素晴らしい売れ行きです。記号だけの短いやりとりですが、気持ち伝わります。

さて、11月上旬、中京指宿会に参加しました。三反園知事も公務多様な折にもかかわらず出席してくださいました。故郷をこよなく愛し、故郷の発展を願う方々の集まりでし

た。懇親の場が盛り上がり、歌や踊りが始まりました。

棒踊りの歌を高らかに歌う方もおられました。歌詞も持たず、まるで踊っているかのように体を動かしながら迫力ある歌でした。万雷の拍手が会場を包み込みました。その方が熱っぽく話されました。

「指宿を離れて半世紀余り、小さいころ見聞きした郷土の踊りは、年を重ねても心に残り、忘れることはできません。歌や踊り、懐かしいふるさとの方言が飛び交うようなそんな会になればうれしいです」。また、80歳になられた方が話されました。

「私が生まれた集落では、祖父母や父母は、となり近所の人を『人さま』と呼んでいました。人さまのために、人さまを大切に、人さまなしでは生活できないと教えられました。人さまの苦しみや喜びが分かり合える『よか地域』でしたよ。そんな指宿であるように頑張ってください」私の手を強く握りました。舞台

に上がり「今日は多くのことを学びました。棒踊りの歌に鳥肌が立ちました。感動で身も心も震えました。参加させていだいて本当によかったです。皆さんの思いに応えられるよう、頑張ります」とお礼を述べました。

今年もいろいろありました。自然災害の多い年でした。歳末恒例の「今年の漢字」には何が選ばれるだろうか。「災」、「命」、平成の終わりに「平」かな、と思いを巡らしながら、帰りの途中、熱田神社に参拝しました。七五三のお参りをする幸せ家族であふれていました。

新しい年を迎えるためには新たな構えと覚悟が必要です。「？」「心うれひ」でなく、「！」素晴らしい年にしたいものです。



指宿市長  
とよどめ えつお  
豊留 悦男